

採卵鶏農場における鶏アデノウイルス (FAV) による筋胃びらんの発生事例

新潟県下越家畜保健衛生所

○金子文恵、曾我万里子ほか

平成 27 年 12 月、県内採卵鶏農場の 1 鶏舎 (褐色鶏、161 日齢、63,000 羽飼養) において、1 日の死亡羽数が通常の 2~10 羽から、38 羽に増加。死亡鶏は鶏舎 1 階中央列付近で多く、顔面と鶏冠に貧血がみられた。死亡鶏及び生体各 6 羽を用いたインフルエンザ簡易検査は陰性。解剖を実施した 13 羽のうち 11 羽のそ嚢及び胃に黒色泥状内容物、全例に筋胃粘膜の出血、穿孔、びらん等が認められた。細菌検査では共通した有意菌は分離されず。病理組織学的検査では検査に供した 7 羽に共通して筋胃びらんを認め、そのうち 3 羽の粘膜上皮細胞内に核内封入体が観察された。ウイルス検査では PCR 検査で筋胃から FAV 特異遺伝子が検出され、血清型 1 型の FAV が分離された。なお、鳥インフルエンザウイルス、ニューカッスル病ウイルスについてはともに分離陰性であった。以上のことから、FAV (血清型 1 型) による筋胃びらんと診断した。その後、終息した 170 日齢までに計 173 羽死亡 (死亡率 0.3%)、その他の鶏舎では同様の症状は認められていない。また、農場の FAV 浸潤状況を調査するために分離ウイルスを用いて抗体検査を行った結果、当該鶏舎及び隣接する鶏舎等複数の鶏舎で抗体価の上昇が認められ、農場内にウイルスの浸潤が確認された。FAV による筋胃びらんは不顕性に終わる群も多いと思われ、その発症には産卵ピーク時のストレス等他の要因の関与が考えられた。